

2013年度第1四半期
決算説明資料

2013年8月2日
旭化成株式会社

1. 2013年度第1四半期実績

主要決算数値 P4

連結損益計算書 P5

連結貸借対照表 P6

連結キャッシュ・フロー計算書 P7

セグメント別売上高・営業利益 P8～10

2. 2013年度上期予想

2013年度上期の業績予想 P12

セグメント別売上高 P13

セグメント別営業利益 P14

3. 参考資料

特別損益 P16

セグメント別業績推移 P17～18

セグメント別概況 P19～28

連結包括利益計算書 P29

1. 2013年度第1四半期実績

主要決算数値

AsahiKASEI

(億円)

	12年度		13年度		1Q実績比較 (対前年同期)	
	1Q	上期	1Q	上期 予想*1	増減額	増減率
売上高	3,650	7,875	4,300	9,120	650	17.8%
営業利益	108	383	283	590	175	161.1%
経常利益	81	359	275	575	194	238.5%
四半期純利益	32	206	196	325	165	522.4%

*1 2013年5月時点の予想

<前提>

ナフサ価格 (国産ナフサ: ¥/kl)	60,600	55,200	65,500	62,000
為替レート (相場平均: ¥/US\$)	80	79	99	95

	13/3月末	13/6月末	増減
総資産	18,002	18,419	418
自己資本	8,121	8,411	290
有利子負債残高	3,814	3,981	166
D/Eレシオ	0.47	0.47	0.00

連結損益計算書

AsahiKASEI

(億円)

(%は売上高比率)	12年度1Q	13年度1Q	増減	増減率
売上高	100.0% 3,650	100.0% 4,300	650	17.8%
売上原価	75.2% 2,744	72.9% 3,133	390	14.2%
売上総利益	24.8% 906	27.1% 1,166	260	28.7%
販管費	21.9% 798	20.5% 883	85	10.7%
営業利益	3.0% 108	6.6% 283	175	161.1%
営業外損益 (内、金融収支)	-27 (6)	-8 (5)	19 (-1)	
(内、持分法投資損失)	(-5)	(-19)	(-13)	
(内、為替差損益)	(-15)	(7)	(22)	
経常利益	2.2% 81	6.4% 275	194	238.5%
特別損益	-12	7	18	
税前利益	1.9% 70	6.6% 282	212	304.7%
法人税等	-38	-84	-46	
少数株主損益	-1	-2	-1	
四半期純利益	0.9% 32	4.6% 196	165	522.4%

連結貸借対照表

AsahiKASEI

(億円)

	13/3月末	13/6月末	増減		13/3月末	13/6月末	増減
流動資産	8,195	8,415	220	負債	9,757	9,884	126
現金及び預金	1,095	1,020	-75	流動負債	6,029	6,142	114
受取手形及び売掛金	3,062	3,052	-10	固定負債	3,729	3,741	13
棚卸資産	3,097	3,434	337	純資産	8,245	8,536	291
その他	941	908	-32	株主資本	7,339	7,438	99
固定資産	9,807	10,005	198	資本金	1,034	1,034	-
有形固定資産	4,616	4,691	75	資本剰余金	794	794	0
無形固定資産	2,554	2,610	56	利益剰余金	5,536	5,634	99
投資その他の資産	2,637	2,704	67	自己株式	-24	-25	-0
				その他の包括利益累計額	782	973	192
				少数株主持分	124	125	1
資産合計	18,002	18,419	418	負債純資産合計	18,002	18,419	418

連結キャッシュ・フロー計算書

AsahiKASEI

(億円)

	12年度1Q	13年度1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー①	47	187
投資活動によるキャッシュ・フロー②	-1,970	-309
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	-1,923	-123
財務活動によるキャッシュ・フロー④	2,061	38
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	-53	12
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	85	-73
現金及び現金同等物の期首残高⑦	964	1,040
連結の範囲の変更に伴う増加額⑧	1	0
関係会社の報告期間変更に伴う増加額⑨	-53	-
現金及び現金同等物の期末残高(⑥+⑦+⑧+⑨)	996	967

セグメント*1別売上高・営業利益

AsahiKASEI

(億円)

	売上高			営業利益		
	12年度1Q	13年度1Q	増減	12年度1Q	13年度1Q	増減
ケミカル	1,611	1,931	321	43	102	59
繊維	263	288	26	6	22	16
住宅	863	984	121	36	66	30
建材	115	131	15	5	13	8
エレクトロニクス	340	365	25	-4	38	42
医薬・医療	324	383	60	47	90	42
クリティカルケア*2	91	178	87	-5	-15	-10
その他	44	40	-4	8	4	-4
消去又は全社	-	-	-	-29	-37	-8
合計	3,650	4,300	650	108	283	175

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

*2 「クリティカルケア」セグメントにおいて、2012年度第1四半期では2012年4月27日以降の業績を開示していたが、2013年度第1四半期より、全期間の業績を連結対象としている。

セグメント*1別売上高・営業利益増減要因(1) AsahiKASEI

(億円)

		12年度1Q	13年度1Q	増減	内訳				
					数量差	売値差	うち為替因	その他差	コスト差等
ケミカル	売上高	1,611	1,931	321	233	67	65	21	-
	営業利益	43	102	59	-1			-	-7
繊維	売上高	263	288	26	16	18	16	-8	-
	営業利益	6	22	16	2			-	-4
住宅	売上高	863	984	121	124	4	-	-8	-
	営業利益	36	66	30	39			-	-13
建材	売上高	115	131	15	14	1	-	-	-
	営業利益	5	13	8	2			-	5
エレクトロニクス	売上高	340	365	25	1	24	47	-	-
	営業利益	-4	38	42	6			-	11

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

セグメント^{*1}別売上高・営業利益増減要因(2) AsahiKASEI

(億円)

		12年度1Q	13年度1Q	増減	内訳				
					数量差	売値差	うち為替因	その他差	コスト差等
医薬・医療	売上高	324	383	60	45	15	15	-	-
	営業利益	47	90	42	42			-	-14
クリティカルケア ^{*2}	売上高	91	178	87	10	2	0	74	-
	営業利益	-5	-15	-10	9			-	-21
その他	売上高	44	40	-4	-4	-	-	-	-
	営業利益	8	4	-4	-2			-	-2
消去又は全社	営業損失	-29	-37	-8	-	-	-	-	-8
合計	売上高	3,650	4,300	650	440	130	143	80	-
	営業利益	108	283	175	97			-	-52

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

*2 「クリティカルケア」セグメントにおいて、2012年度第1四半期では2012年4月27日以降の業績を開示していたが、2013年度第1四半期より、全期間の業績を連結対象としている。

2. 2013年度上期予想

2013年度上期の業績予想

(億円)

	12年度			13年度上期予想			増減 b-a	13年度上期 当初予想*1 c	増減 b-c
	上期 a	下期	計	1Q	2Q 予想	計 b			
売上高	7,875	8,791	16,666	4,300	4,900	9,200	1,325	9,120	80
営業利益	383	537	920	283	367	650	267	590	60
経常利益	359	593	951	275	335	610	251	575	35
当期純利益	206	331	537	196	184	380	174	325	55

*1 2013年5月時点の予想

<前提>

ナフサ価格 (国産ナフサ:¥/kl)	55,200	59,800	57,500	65,500	65,000	65,250	10,050	62,000	3,250
為替レート (相場平均:¥/US\$)	79	87	83	99	99	99	19	95	4

	12年度	13年度上期 (予定)
1株当たり配当金	14円	7円

セグメント*1別売上高

AsahiKASEI

(億円)

	12年度			13年度			増減 b-a	13年度上期 当初予想*2 c	増減 b-c	(参考) 13年度 2Q-1Q 増減
	1Q	2Q	上期 a	1Q	2Q 予想	上期 予想 b				
ケミカル	1,611	1,713	3,323	1,931	2,049	3,980	657	3,980	-	117
繊維	263	276	539	288	302	590	51	580	10	13
住宅	863	1,267	2,130	984	1,406	2,390	260	2,390	-	423
建材	115	132	248	131	149	280	32	280	-	19
エレクトロニクス	340	330	669	365	375	740	71	700	40	11
医薬・医療	324	324	648	383	377	760	112	730	30	-6
クリティカルケア*3	91	138	229	178	202	380	151	370	10	25
その他	44	45	89	40	40	80	-9	90	-10	0
合 計	3,650	4,225	7,875	4,300	4,900	9,200	1,325	9,120	80	601

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

*2 2013年5月時点の予想

*3 「クリティカルケア」セグメントにおいて、2012年度第1四半期では2012年4月27日以降の業績を開示していたが、2013年度第1四半期より、全期間の業績を連結対象としている。

セグメント^{*1}別営業利益

AsahiKASEI

(億円)

	12年度			13年度			増減 b-a	13年度上期 当初予想 ^{*2} c	増減 b-c	(参考) 13年度 2Q-1Q 増減
	1Q	2Q	上期 a	1Q	2Q 予想	上期 予想 b				
ケミカル	43	102	146	102	108	210	64	210	-	6
繊維	6	11	17	22	13	35	18	30	5	-9
住宅	36	152	188	66	199	265	77	265	-	132
建材	5	11	16	13	12	25	9	25	-	-2
エレクトロニクス	-4	4	0	38	32	70	70	40	30	-6
医薬・医療	47	28	75	90	50	140	65	105	35	-39
クリティカルケア ^{*3}	-5	-6	-11	-15	-5	-20	-9	-20	-	10
その他	8	3	12	4	1	5	-7	5	-	-3
消去又は全社	-29	-30	-60	-37	-43	-80	-20	-70	-10	-5
合計	108	275	383	283	367	650	267	590	60	84

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

*2 2013年5月時点の予想

*3 「クリティカルケア」セグメントにおいて、2012年度第1四半期では2012年4月27日以降の業績を開示していたが、2013年度第1四半期より、全期間の業績を連結対象としている。

3. 参考資料

特別損益

AsahiKASEI

(億円)

	12年度1Q	13年度1Q	増減
投資有価証券売却益	-	0	0
固定資産売却益	0	15	14
特別利益	0	15	15
投資有価証券評価損	0	-	-0
固定資産処分損	11	5	-7
減損損失	0	-	-0
事業構造改善費用	0	4	3
特別損失	12	8	-4
特別損益	-12	7	18

セグメント*1別売上高推移

AsahiKASEI

(億円)

	11年度				12年度				13年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q 予想
ケミカル*2	1,779	1,822	1,656	1,545	1,611	1,713	1,690	1,832	1,931	2,049
繊維	277	284	272	275	263	276	275	283	288	302
住宅	792	1,208	1,090	1,430	863	1,267	1,174	1,557	984	1,406
建材	101	122	128	111	115	132	144	123	131	149
エレクトロニクス	398	378	356	329	340	330	332	310	365	375
医薬・医療	294	306	307	288	324	324	361	326	383	377
クリティカルケア*3	-	-	-	-	91	138	133	160	178	202
その他	40	45	44	57	44	45	42	50	40	40
合計*2	3,680	4,165	3,853	4,035	3,650	4,225	4,151	4,640	4,300	4,900

控除したナフサ転売取引額

82	96	164	56
----	----	-----	----

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

*2 2011年度第4四半期よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。

*3 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ZOLL Medical社の業績等については同セグメントにて開示する。

セグメント*1別営業損益推移

AsahiKASEI

(億円)

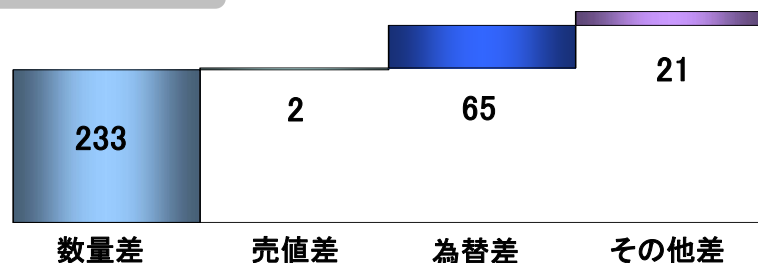
	11年度				12年度				13年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q 予想
ケミカル	194	147	92	12	43	102	29	55	102	108
繊維	14	7	5	5	6	11	13	10	22	13
住宅	36	142	109	175	36	152	130	225	66	199
建材	2	5	9	1	5	11	17	7	13	12
エレクトロニクス	48	22	-5	-2	-4	4	14	14	38	32
医薬・医療	26	30	37	-6	47	28	70	15	90	50
クリティカルケア*2	-	-	-	-	-5	-6	-12	-13	-15	-5
その他	4	8	9	9	8	3	5	6	4	1
消去又は全社	-22	-27	-25	-23	-29	-30	-22	-23	-37	-43
合 計	302	335	233	172	108	275	242	294	283	367

*1 2013年度第1四半期より、「ケミカル・繊維」、「住宅・建材」、「エレクトロニクス」、「ヘルスケア」の4事業領域の区分に基づき、事業セグメントの記載順番を見直している。

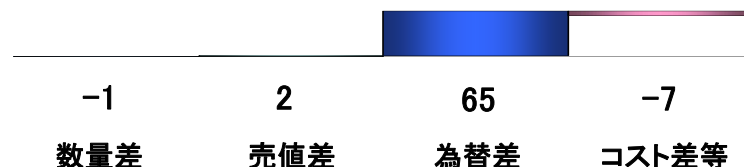
*2 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ZOLL Medical社の業績等については同セグメントにて開示する。



売上高増減分析



営業利益増減分析



<概況>

以下の状況により、前年同期比増収、増益となった。

・汎用系事業

モノマー系事業は、アクリロニトリルの市況が低水準で推移したことや原燃料価格高騰の影響を受けたものの、円安の効果に加え、スチレンモノマーで市況の改善などがあった。また、ポリマー系事業では、円安の効果に加え、省燃費タイヤ向け合成ゴムや自動車向けエンジニアリング樹脂の販売が堅調に推移した。

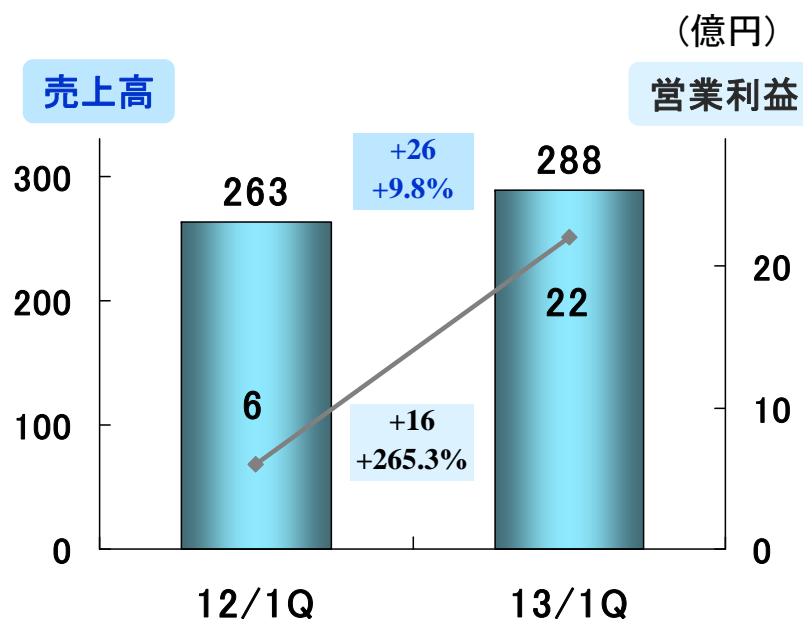
・高付加価値系事業

イオン交換膜を中心とした円安の効果に加え、コーティング事業などの販売が堅調に推移した。

<トピックス>

・シンガポールにおける省燃費タイヤ向け溶液重合法スチレンブタジエンゴム(S-SBR)の新工場が商業運転を開始。(4月)

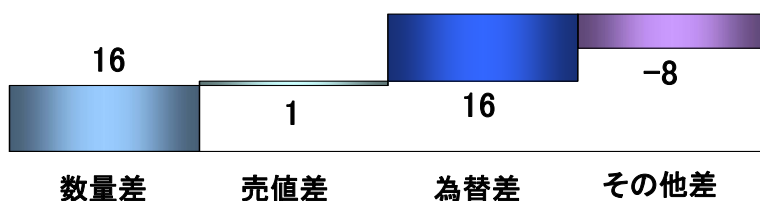
・中国におけるポリアセタール製造・販売合弁会社のデュポン持分全株式を譲り受けることを決定。(6月)



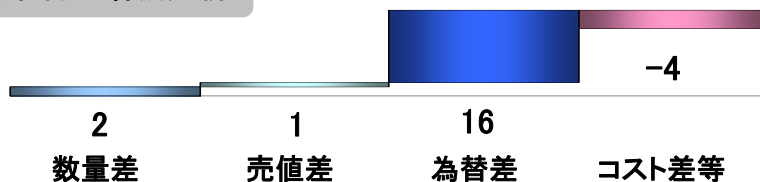
<概況>

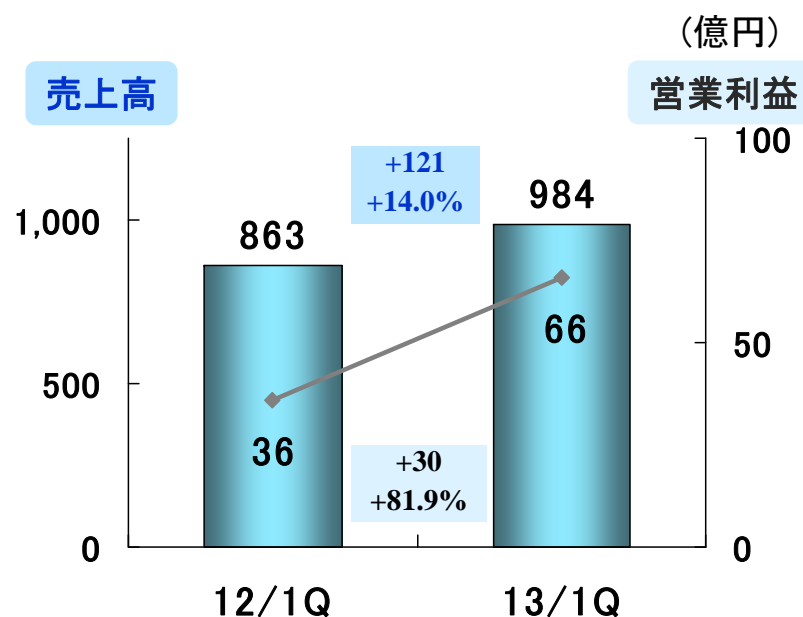
ナフサなどの原燃料価格高騰の影響を受けたが、円安の効果に加え、人工皮革「ラムース™」のカーインテリア向けなどの不織布やポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」の販売量が増加し、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」の販売も堅調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となった。

売上高増減分析



営業利益増減分析





事業別増減分析

	12年度1Q		13年度1Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
建築請負部門 (旭化成ホームズ)	614	19	717	51	103	32
不動産部門 (旭化成不動産レジデンス)	144	18	151	15	7	▲3
リフォーム部門 (旭化成リフォーム)	98		112		14	
その他住宅周辺事業等	7		3		▲3	
合計	863	36	984	66	121	30

<概況>

- ・建築請負事業において、戸建住宅「ヘーベルハウス™」や集合住宅「ヘーベルメゾン™」の引渡戸数が増加した。また、不動産事業において賃貸管理事業を中心に順調に推移したことや、リフォーム事業で大型改築・改装工事などの受注が好調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となった。
- ・建築請負事業の受注高は、都市部のニーズを捉えた商品展開や低金利などの受注環境を背景に、順調に受注を伸ばし、前年同期比10.8%の増となった。

<トピックス>

- ・単世帯で75坪以上となる「邸宅」スペックの3階建て住宅「ヘーベルハウス™ FREX RESIDENCE」を発売。(4月)

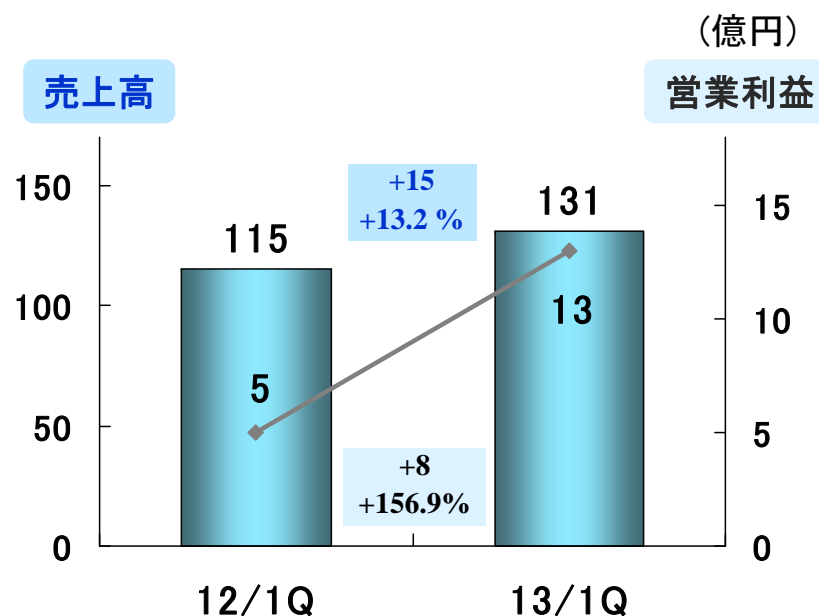
住宅／売上高*1、受注高の状況

(単位:億円、()内は対前年同期比)

		請負受注高	請負売上高	分譲売上高	他	関係会社等	連結計	受注残
09	上期	1,546 (▲1.6%)	1,158 (▲10.5%)	52 (▲12.6%)	8	358 (4.4%)	1,577 (▲7.4%)	3,213
	下期	1,523 (13.7%)	1,665 (▲6.4%)	269 (12.4%)	11	375 (1.7%)	2,320 (▲3.2%)	3,071
	通期	3,069 (5.4%)	2,823 (▲8.1%)	321 (7.4%)	19	734 (3.0%)	3,897 (▲4.9%)	
10	上期	1,817 (17.6%)	1,255 (8.3%)	94 (79.8%)	11	375 (4.8%)	1,735 (10.0%)	3,634
	下期	1,728 (13.4%)	1,766 (6.1%)	184 (▲31.7%)	15	392 (4.5%)	2,357 (1.6%)	3,595
	通期	3,545 (15.5%)	3,021 (7.0%)	278 (▲13.6%)	25	768 (4.6%)	4,092 (5.0%)	
11	上期	1,894 (4.2%)	1,459 (16.3%)	119 (26.5%)	15	406 (8.3%)	2,000 (15.2%)	4,030
	下期	1,825 (5.6%)	1,937 (9.7%)	118 (▲35.7%)		465 (14.2%)	2,520 (6.9%)	3,918
	通期	3,719 (4.9%)	3,396 (12.4%)	237 (▲14.7%)		887 (11.8%)	4,520 (10.4%)	

		請負受注高	建築請負 部門売上高	不動産 部門売上高				リフォーム 部門売上高	他	連結計	受注残
				分譲	賃貸	他	合計				
12	1Q	1,009 (6.6%)	614	24	114	5	144	98	7	863 (9.0%)	4,331
	2Q	1,065 (12.4%)	1,001	20	118	5	144	118	5	1,267 (4.9%)	4,415
	上期	2,075 (9.5%)	1,614	44	233	11	288	216	12	2,130 (6.5%)	
	下期	2,049 (12.3%)	2,059	162	245	11	419	247	7	2,731 (8.4%)	4,446
	通期	4,124 (10.9%)	3,673	206	478	22	706	463	19	4,862 (7.6%)	
13	1Q	1,118 (10.8%)	717 (16.8%)	16	128	7	151	112	3	984 (14.0%)	4,864
	2Q予	1,222 (14.7%)	1,096 (9.5%)	26	132	10	168	143	-1	1,406 (10.9%)	5,016
	上予	2,340 (12.8%)	1,813 (12.3%)	42	261	17	319	255	3	2,390 (12.2%)	

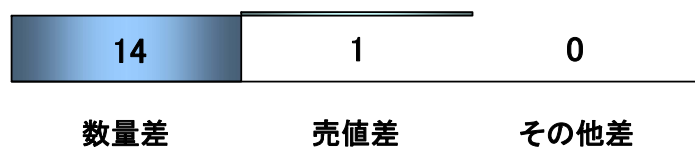
*1 2012年度より「建築請負部門」、「不動産部門」、「リフォーム部門」の区分にて表示。従来の分譲事業売上高は、建築請負部門と不動産部門に分けて算入。



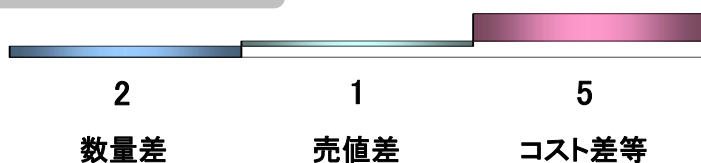
<概況>

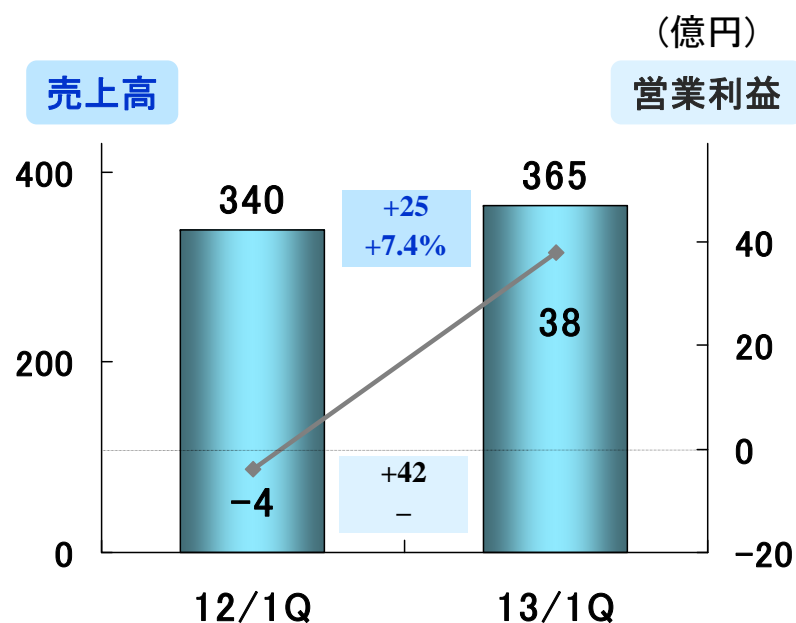
軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」や高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の販売が好調に推移した。また中小型パイル工法「イーゼット™」でメガソーラー向けなど新規用途の受注が拡大し、構造資材事業も堅調であったことから、前年同期比増収、増益となった。

売上高増減分析



営業利益増減分析

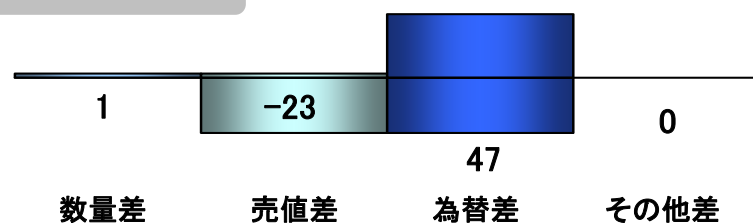




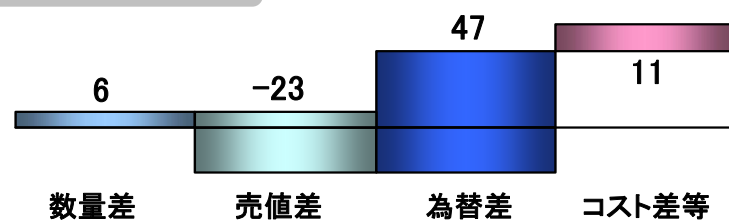
<概況>

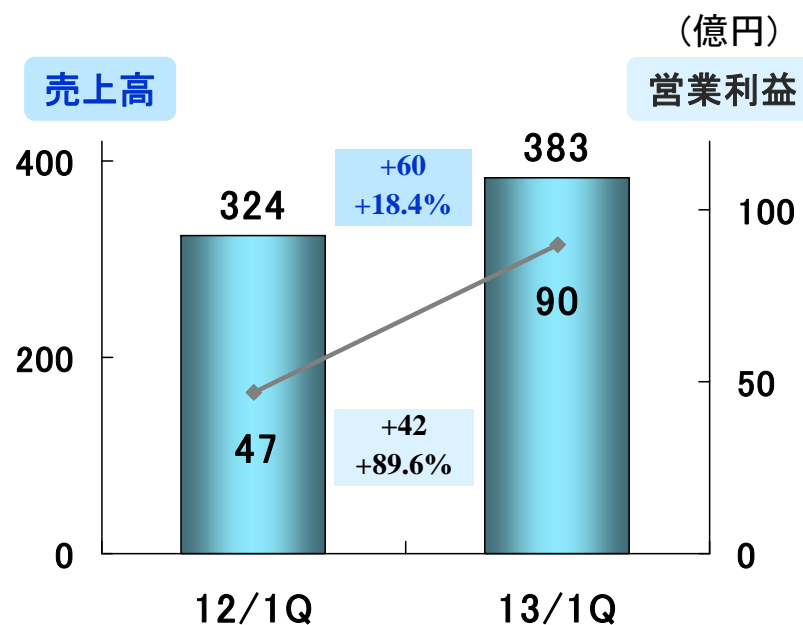
電子部品系事業は、各製品において販売価格下落の影響を受けたが、円安の効果に加え、スマートフォンなど携帯端末向けミクスドシグナルLSIの販売が堅調に推移した。電子材料系事業では、円安の効果に加え、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」を中心に、各製品における高機能領域の販売が堅調に推移したことなどから、セグメント全体で前年同期比増収、増益となった。

売上高増減分析



営業利益増減分析





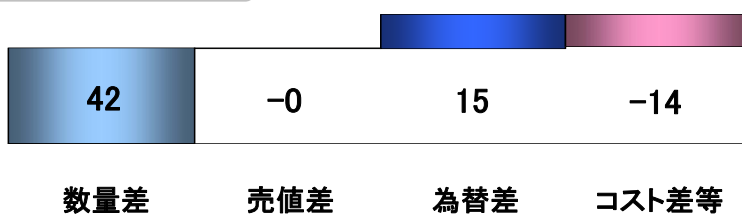
<概況>

医薬事業は、販管費が増加したものの、骨粗鬆症治療剤「テリボンTM」や血液凝固阻止剤「リコモジュリンTM」を中心に販売量が増加した。また、医療事業は、円安の効果に加え、ウイルス除去フィルター「プラノバTM」の販売量が増加し、セグメント全体で前年同期比増収、増益となった。

売上高増減分析



営業利益増減分析



医薬・医療／売上高内訳

(億円)

		12年度		13年度
		1Q	上期	1Q
医薬事業	国内医薬	171	342	209
	その他	13	23	12
	計	184	365	221
医療事業		140	283	163
医薬・医療 計		324	648	383

<主要医薬品の国内売上高>

(億円)

	12年度		13年度
	1Q	上期	1Q
テリボン TM	33	73	64
フリバス TM	36	70	36
リコモジュリン TM	20	43	28
エルシトニン TM	27	53	22
ブレディニン TM	16	31	17

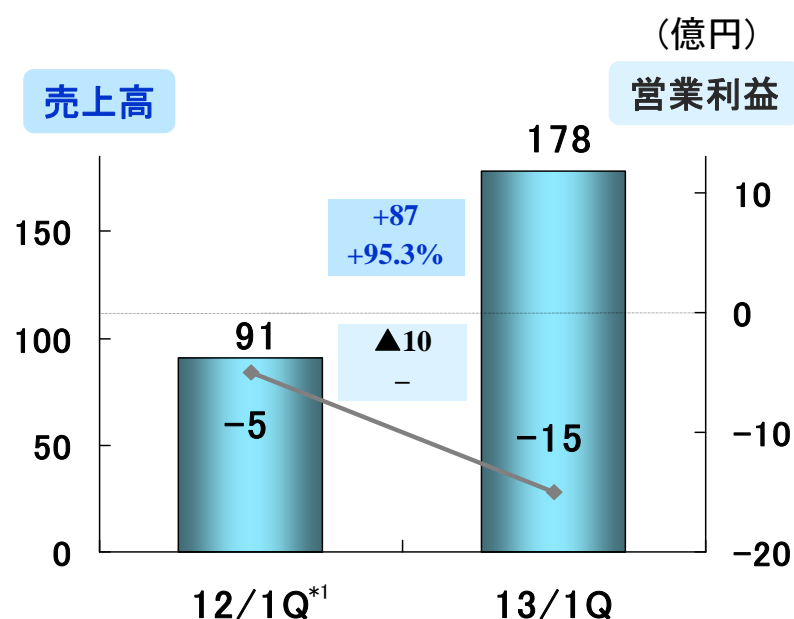
医薬／研究開発の状況

		開発コード・剤型 (一般名)	区分	薬効・分類	適応症	自社/導入	備考
国内	フェーズⅢの品目	AK-156注 (ゾレドロン酸水和物)	新効能・新用量 医薬品	骨吸収抑制剤 (ビスフォスフォネート)	骨粗鬆症	導入	年1回 投与
		AK-160注	新成分新薬	細菌由来の コラゲナーゼ製剤	デュピュイトラン 拘縮	導入	
	フェーズⅡの品目	AT-877錠 (ファスジル塩酸塩水和物)	適応拡大 剤型追加	ローキナーゼ阻害剤	肺高血圧症	自社	
		HC-58注 (エルカトニン)	適応拡大	カルシトニン製剤	肩手症候群	自社	
海外	フェーズⅢの品目	ART-123注 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	新成分新薬	血液凝固阻止剤	凝固異常を伴う 重症敗血症	自社	
	フェーズⅡの品目	AK106	新成分新薬	抗炎症剤	関節リウマチ	自社	

探索・基礎研究

成熟化・高齢化社会の中で、健康で快適な生活を送りたいという人びとの願いに応えるために、整形外科領域や泌尿器領域を中心に「未だ有効な治療方法がない医療ニーズ(アンメットメディカルニーズ)」の解決に取り組んでいます。自社技術の絶えざる革新と、世界の優れた技術とのコラボレーションを積極的に推進し、世界に通用する新薬の創出を進めています。

クリティカルケア概況



<概況>

着用型自動除細動器「LifeVest(ライフベスト)™」の業績が順調に拡大し、医療機関向け除細動器なども堅調に推移したが、営業活動強化に伴う販管費が増加した。また、連結対象期間の差異による影響などから、増収、減益となった。

<トピックス>

着用型自動除細動器「LifeVest(ライフベスト)™」の日本国内での製造販売承認を取得。(7月)

<参考:クリティカルケアセグメント業績推移>

	12年度				13年度	
	1Q*1	上期	下期	(11ヵ月)	1Q	上期 予想
売上高(連結)	91	229	293	521	178	380
事業利益*2	19	41	32	73	18	46
のれん償却額	-9	-23	-30	-53	-17	-35
無形固定資産償却額等	-15	-29	-27	-57	-16	-31
償却額合計*2	-24	-52	-58	-110	-33	-66
営業利益(連結)	-5	-11	-26	-37	-15	-20

*1 2012年5月、6月の2ヶ月間の業績

*2 2012年度第3四半期まで、当社による買収前に発生していたZOLL Medical社の無形固定資産償却費用を「償却額合計」に含めて表示していたが、2012年度第4四半期より同費用は「事業利益」より差し引くこととし、「償却額合計」からは除いている。これに伴い、過去に遡って2012年度分の表示を変更している。(尚、該当は「無形固定資産償却額等」のみで、「のれん償却額」には影響はない。)

連結包括利益計算書

AsahiKASEI

(億円)

	12年度1Q	13年度1Q	増減
少数株主損益調整前四半期純利益①	32	198	166
その他有価証券評価差額金	-31	68	99
繰延ヘッジ損益	14	2	-12
為替換算調整勘定	-117	119	236
持分法適用会社に対する持分相当額	-15	4	19
その他の包括利益合計②	-149	193	342
四半期包括利益(①+②)	-117	391	508

(内訳)

親会社株主に係る四半期包括利益	-114	388	502
少数株主に係る四半期包括利益	-2	3	5

業績予想の適切な利用に関する説明、 その他特記事項

上記の連結業績予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれています。当該予想と実際の業績の間には、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。